

## ララ物資関係資料について

神奈川県立図書館 地域情報課

(かながわ資料／新聞・雑誌室)

ララ（救援）物資とは、アジア救援公認団体 Licensed Agencies for Relief in Asia（略称：LARAララ）が一九四六年から五二年まで提供していた日本向けの援助物資のことで、その資料は、他館と同様に神奈川県立図書館でも稀少である。「かながわ資料／新聞・雑誌室」で保存・利用されている神奈川県にかかわるララ物資の資料を中心に紹介したい。「」内は当館での請求記号である。なお、本号掲載論文「ララ物資と神奈川県」（以下「ララ論文」と略称。）において多くの文献、史・資料が紹介されているので、併せて通覧されたい。

### ○ララ物資関係の図書・雑誌資料

一九五二年一二月、厚生省より出版された『ララ記念誌』は、九六年一月に社会福祉法人全国社会福祉協議会より複製された〔K36／717〕。神奈川県でも五三年三月に県

民生部福祉課（当時）から小冊子『ララ記念のしおり』が発刊された（未所蔵）。また、ララ物資と神奈川県についての研究文献は少ない。『史談足柄』第五一集（二〇一三年刊）〔K208／1/51〕所収の古屋達夫著「隠されたララ物資誕生の真相」は誤って伝えられていたララ物資誕生の真相を明らかにする。ララ物資生みの親ともいえる在米日本人の浅野七之助の果たした働き、功績を明らかにしている。

### ○ララ救援物資写真帖〔K36／1179〕

オリジナルの白黒写真五〇点から成る写真アルバム。当時の事業担当であった神奈川県民生部社会課（のちに福祉課）が撮影したもので、行政資料室（当時）を通して県立図書館へ引き継がれた。撮影日は不明であるが、数枚の写真に「ララミルクステーション」の看板が写っており、その設置時期から四八年八月以降と限定できる。

写真には一切説明がないが、ララ物資を届けた施設として、横浜市日の出町にあった「社団法人日本厚生団ボーイズ・ホーム診療所」、横須賀市安浦町の「財団法人阿部睦

会日ノ出授産場」、同市鷹取町の「湘南国際病院」、海老名町（当時）の「中心学園」の四施設が登場する。

横浜港の倉庫から右記施設へのトラック輸送に携わった業者は、車体の表示から日興物産株式会社（略称NBK）とわかる。三井物産解体後、横浜支店が日興物産となった。

横浜港に物資を届けた輸送船の写真が一枚ある。船首に船名「RIO AGUAPEY」の表示があるが、現在のところ、ララ物資関係資料にはリオ・アグアペイ号の名を見つけないことができる。

また、ララ物資の中には山羊も含まれていたため、その写真もある。神奈川県乳児保護協会が県知事に宛てた報告には「ララ寄贈山羊八頭は…飼育いたしまして十六頭に繁殖いたしました」とあり、他施設へ計十頭分けたことも伝えられている。「ララ論文」では当アルバムから「積荷降ろしを手伝う施設の子供たち」と「ララの山羊舎の子供たち」の写真二枚が採用・掲載されている。

### ○他施設収蔵の一次資料

県から市町村を経由して施設に宛てた公文書が現在も保存されている。例を挙げると、小田原市の小田原乳児保護会（宝安寺社会事業部）は、ララ物資の同市におけるミルクステーションやクロージングステーションとして多くの関係資料を保管する。宍倉正弘著『手から手へ―光る海のまちの物語』神奈川新聞社一九九一年〔K367/18〕も二章を割いて施設とララ物資との関わりを取り上げている。

「ララ論文」に引用の財団法人神奈川県乳児保護協会の資料件名は、『横浜市史資料所在目録 近・現代 第4集』一九九四年〔K271/41/4〕に「社会福祉法人乳児保護協会所蔵資料」として収録され、横浜市史資料室でマイクロフィルムやその紙焼き資料で閲覧ができる。

神奈川県庁に遺されたララ物資の公文書は現在二件で（県立公文書館蔵）、学校保健課作成の「昭和二十六年度学校給食本省通牒綴」に収められている。結核罹患大学生と夜間高校生に対するララ物資（スキムミルクやドライエッグ）の配分決定通知などである。